

# 通常の学級に在籍する場面緘黙症と自閉症スペクトラムの傾向がある小学6年生の児童への合理的配慮の提供事例

## 1. 事例の概要

通常の学級に在籍する場面緘黙症と自閉症スペクトラムの傾向があるA児（小学6年生）が、在籍するB小学校の通級による指導を受け、保護者との連携を図りながら合理的配慮を提供した事例である。

A児は、小学3年生時から日々の学習活動で発言する様子が見られず全体の場で話せない、固まる様子が見られるようになり、通級による指導が開始された。そこで、担任と保護者がA児の課題を共有するために連絡帳でA児の一日の様子を伝え合い、合理的配慮の提供についての協議を行い、その都度合意形成を図ってきた。

A児への支援については、学習理解を促すために、授業の始めにめあてや学習内容を提示し授業に見通しをもたせるように、担任とやりとりをする「毎日3行日記」を行い、その中でA児の思いや考えを汲み取り、学習の振り返りを行っている。

このような取組を続けることで、A児は安心感を持って学習に向かう姿が多く見られるようになったり、自分の思いや考えを表出したり、学習を振り返ることが徐々にできるようになってきている。

**キーワード** 通級による指導、集団参加、場面緘黙症、見通し、毎日三行日記

## 2. 児童の実態

A児は、小学3年生時から全体の場で話せない、固まってしまうという傾向が見られるようになり、通級による指導が開始された。日々の学習では、発言する様子は見られず、目立つことに抵抗感があり、ごく限られた少数の友だちという場面だけ言語でコミュニケーションをとることができる。全校集会など大きな集団に参加する活動では入り口で立ち止まり、集合場所から離れることが多い。また、教室移動を伴う学習においても一緒に移動したり、活動したりすることが難しい。

A児は、学習に取り組む姿は一見落ち着いているので課題は見えにくいですが、自分の思いや考えを文章にまとめることには苦手意識がある。授業の中で、挙手をしたり話したりすることがないので、個別に関わり、学習の理解度について確認している。

## 3. 本事例に関する基礎的環境整備

- 専門性を高める研修会を年3回開催し、子どもをどう見るか、どう支援するかを検討している。研修会には、巡回相談担当も同席するようにしている。【基礎2】
- B小学校のあるC市では、各学校に特別支援教育支援員が配置されている。また、C市の学習支援員が非常勤で配置されており、きめ細やかな実態把握と必要な支援・配慮の実施ができる体制を整えている。【基礎6】
- B小学校には「ことばの教室」が設置されている。「幼児部」「学齢部」が併設となっており、発達支援センターと通級による指導の役割を果たしながら就学前から義務教育終了までの幼児児童生徒を対象とした指導を行っている。また、各校・園

との連携を日常的に行っている。【基礎7】

#### 4. 合意形成のプロセス

児童の課題について、担任が保護者と連絡帳のやりとりを行って一日の状況を伝えたり、定期的に保護者を交えたケース会議を設定したりしながら相談を行っている。

A児への支援の決定については、担任と合理的配慮推進員と特別支援教育支援員が可能な限り相談を密にし、定期的な研修の機会に外部専門家、校長、教育委員会を交えて検討の会議を設けている。また、保護者と日常的に情報を共有し連携をとっている。合理的配慮の提供についてはケース会議を行い、その都度合意形成を図っている。

#### 5. 合理的配慮の実際

- 授業の振り返りの際、感想やわかったことを表現する場面では、口頭の発表ではなく、プリントに記入させることで、めあてが達成できているかを確認し、評価資料として活用している。【合理①-1-1】
- 集合する際は、集団から離れているA児の近くを集合場所にして、さりげなくA児が集団に入りやすいようにした。【合理①-2-2】
- 「体育科」の学習では、着替え・移動・体操までは参加可能だが、キャッチボールなどのグループ活動には参加しにくいので、用具などの準備や片付けへの参加を促し、出番を用意した。【合理①-2-2】
- 「家庭科」の調理実習では、A児だけでなく他の児童の動きもわかるような役割分担表を個別に用意し、事前に作成させて見通しをもたせた。【合理①-2-2】
- 日常会話によるコミュニケーションが成立しにくいので、学習への思いや家庭での様子を知るため、担任との「毎日三行日記」を用いた。(春から夏は、文章での表現をしなくても良いことにして、A児が好む絵での表現を認めた。秋から冬は、話題を共有しながら、少しずつ学校生活についてもやりとりができるように促した。)【合理①-2-3】

#### 6. 本事例の成果と課題

集団活動では、活動の流れを説明し、写真や図で視覚支援をして見通しをもたせることにより、A児は集団活動に参加しようとする意欲がみられるようになってきた。

学習面では、授業の始めに学習のめあてや学習内容を提示し、見通しを持たせることで、安心感を持って学習に向かう様子が見られるようになってきた。また、担任とやりとりをする「毎日3行日記」を通して、A児の思いや考えを表出したり、学習を振り返ったりすることが徐々にできるようになってきた。

今後、A児の学習理解をより深めるためには、A児が自分の思いや考えを主張する方法を見つけていく必要がある。自分の思いや考えが表出できるならば、授業時間に教師のアプローチも増えるであろうし、学習に対して「わかった。」「できた。」というA児の実感も増えるであろう。新しい環境や人との関係づくりが苦手なA児にとって、今後は、新規な場面に適応したり、社会に出て新しい場面でも自分の力を出せるような、ソーシャルスキルを身に付けていくことが重要だと考える。